

# 「ひとりで学べる RC 造建築物の構造計算演習帳【許容応力度計算編】」

## 正誤表（第2版1刷）

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正いたします。

今後も追加される可能性がありますので最新の正誤表については、(一財)日本建築センターホームページ (<http://www.bcj.or.jp/>) からご確認下さい。

H26/7/23

該当箇所		誤	正
頁	行		
114	ポイント②	あばら筋間隔 $x$ は、 $\phi 9$ 又は D10 を用いる場合、 $x \leq \frac{D}{2}$ かつ、 $x \leq 250(\text{mm})$ とします。その他の鉄筋では、 $x \leq \frac{D}{2}$ かつ、 $x \leq 450(\text{mm})$ です。	あばら筋間隔 $x$ は、 $x \leq \frac{D}{2}$ かつ、 $x \leq 250(\text{mm})$ とします。
135	ポイント②	帯筋間隔は、 $9\phi$ 又は D10 では 100 (mm) 以下とする。	帯筋間隔は、100 (mm) 以下とする。
186	下から 3 行目	・・・仕上げ荷重との和 ( $\text{kN/m}^3$ ) ・・・	・・・仕上げ荷重との和 ( $\text{kN/m}^2$ ) ・・・
190	④の 3 行目	$w_p = 3,180 (\text{N/m}^2)$ となります。	$w_p = 3,180 (\text{N/m}^2) = 3.18 (\text{kN/m}^2)$ となります。
190	下から 2 行目	$M_{x1} = \dots = -\frac{1}{12} \times 3,180 \times \dots$	$M_{x1} = \dots = -\frac{1}{12} \times 5,337 \times \dots$
192	図 9.3-5	<p>The diagram shows a cross-section of a slab with various loads and dimensions. A table lists the loads: <math>w</math> (<math>\text{N/m}^2</math>), <math>w_p</math> (<math>\text{N/m}^2</math>), <math>w_x</math> (<math>\text{N/m}^2</math>), and <math>t</math> (mm). The value of <math>w_x</math> is corrected from 3,180 to 5,337. A red box highlights the correction: <math>W_p = 3,180 (\text{N/m}^2) = 3.18 (\text{kN/m}^2)</math>. The diagram also shows a correction of the slab thickness <math>t</math> from 110 mm to 130 mm (OK).</p>	

「ひとりで学べるRC造建築物の構造計算演習帳（許容応力度計算編）」正誤表（第3版2刷）

2019. 6. 11

本書に誤り等がありましたので、以下のとおり訂正させていただきます。

該当箇所		誤	正
頁	行		
64	図 3.4-2 材端モーメントと柱のせん断力	柱AC : 柱記号 柱BD : 柱CE : 柱 <u>CE</u> :	柱AC : 柱記号 柱BD : 柱CE : 柱 <u>DF</u> :
64	図 3.4-3 のタイトル上の式 2 行	$\begin{cases} R_A = R_{A0} = R_{A'} = \dots \\ R_B = R_{B0} = R_{B'} = R_{B0} \dots \end{cases}$	$\begin{cases} R_A = R_{A0} + R_{A'} = \dots \\ R_B = R_{B0} + R_{B'} = R_{B0} + \dots \end{cases}$
79	ひとりでやってみよう 12	<同表の「X方向」の「 $r_{save}$ 」欄の数値 (1781) の説明> 「1階と2階の $r_s$ の平均値 $r_{sdve}$ 」	「1階と2階の $r_s$ の平均値 $r_{save}$ 」
88	4行目の式	$DF = (1 + 3\bar{k}) - \sqrt{(1 + 3\bar{k})^2 - 1}$ $\doteq \frac{0.5}{1 + 3\bar{k}'}$	$DF = (1 + 3\bar{k}) - \sqrt{(1 + 3\bar{k})^2 - 1}$ $\doteq \frac{0.5}{1 + 3\bar{k}'}$
127	(4)の下から2行目	「 <u>長期</u> 荷重に対して必要な柱の鉄筋比となります。」	「 <u>短期</u> 荷重に対して必要な柱の鉄筋比となります。」
134	(2) の 11 行目	d : 有効せい、 <u>b · x</u>	d : 有効せい、 <u>x</u>
138	図表	「帯筋間隔(2- <u>10D</u> ) (mm)」	「帯筋間隔(2- <u>D10</u> ) (mm)」
141	ひとりでやってみよう 24 の【長期】	②～長期許容付着応力度 $s_{f_a}$ ～ ⑤～ $\ell_d - d$ が $\frac{L \sigma_t \cdot d_b}{3.2 s_{f_a}}$ 以上であれば～	②～長期許容付着応力度 $L_{f_a}$ ～ ⑤～ $\ell_d - d$ が $\frac{L \sigma_t \cdot d_b}{3.2 L_{f_a}}$ 以上であれば～
240	演習シート 15① (解答)	<「ii」Y <sub>2</sub> ラーメンの架構図における記号> 「 <u>G<sub>3</sub></u> 」(2か所) 及び「 <u>G<sub>4</sub></u> 」	「 <u>G<sub>5</sub></u> 」(2か所) 及び「 <u>G<sub>6</sub></u> 」
＜以下、別冊演習シート＞			
20	演習シート 15①	<「ii」Y <sub>2</sub> ラーメンの架構図における記号> 「 <u>G<sub>3</sub></u> 」(2か所) 及び「 <u>G<sub>4</sub></u> 」	「 <u>G<sub>5</sub></u> 」(2か所) 及び「 <u>G<sub>6</sub></u> 」